

## 1 この科目の構成について

教 科	国語科	科 目	現代文	単 位	3単位
対象コース	美術コース	対象クラス	2年7組8組		
使用教科書	高等学校 現代文 B (第一学習社)				
使用副教材	錬成 現代文 (尚文出版)				

## 2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学 習 目 標	—この科目を学習して何を身に付けてほしいのか—
	近現代のすぐれた文章を読み、ゆたかな鑑賞力と柔軟な表現力の育成を目指します。正確な知識と客観的な読解のもと、「書く力」「話す力」を養い、総合的な国語力を磨きます。また、現代社会に潜む様々な問題について多角的に考える力を高めます。
学 習 内 容	—この科目で学習する大まかな内容—
	以下の二つの分野を学びます。 (1) 現代の評論文…客観的思考力、問いに対して正確に答える能力を身につけます。 (2) 近現代の文学的な文章…すぐれた文学作品を読み解き、豊かな言語表現力を身につけます。
学 習 方 法	—この科目を学校と家庭でどのように学習すればいいのか—
	(1) 学校 授業においては「考える手順」を身につけることが最も大切です。正答に至るまでの思考の手順をノートに書きためましょう。問題文(口頭での質問も含む)の意図を読み取り、考え、答えを表現する方法を授業で体得しましょう。 (2) 家庭 家庭学習の時間は、暗記とドリル学習にあてましょう。知識を定着させる場が家庭学習です。家庭で得た知識を用いて授業で思考することが、最も効果的な学習方法となります。

## 3 この科目の評価方法について

評 価 方 法	—何をを使って評価するのか—
	(1) 定期考査→年5回、定期考査を実施します。授業での学習内容から出題します。 (2) 小テスト→年間を通して漢字テストを実施します。 (3) 長期休暇中の課題→読書感想文、現代文の演習問題を宿題として課します。 (4) 学期中の課題→授業理解の確認のための宿題を課します。
評価における定期考査の割合	
	70 %

## 4 この科目の評価の観点について

評 価 の 観 点	—この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか—
	(1) 関心・意欲・態度 問題を解決しようとする意欲、つまり考えようとする態度を重視します。 (2) 思考・判断 合理的であるかが評価の軸となります。恣意的な思考は評価しません。 (3) 技能・表現 口頭・文章ともに、受け手に配慮した簡明な表現であることを重視します。 (4) 知識・理解 定着度だけではなく、知識を得ようとする日常の取り組みを評価します。

年間学習計画		—この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか—		重視する評価の観点			
期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知
一	4	評論 『自他の「問合い」』鷲田清一	論理的な文章の展開について理解を深めます。長いセンテンス中の修飾被修飾の関係を深くたどり、比喩や類比の関係を読み取っていきます。一般的な常識とは対照的な論証を読むことによって評論の白さを感じ、読解の技術を高めていきます。	●	●		●
	5	評論 『日本人の「自然」』木村 敏	情景と心理を把握する力を磨きます。読書と別の観点から表現に沿った的確な読解をした上で、主題に迫ります。 <b>道徳教育を実施</b>	●	●		●
二	6	小説 『山月記』中島 敦	評論の論旨を正しくとらえ、内容を理解する力を深めます。身近な現象から本質的なものをとらえていく思考方法を学びます。	●	●	●	
	7	詩 『永訣の朝』宮沢 賢治	近代詩・現代詩に親しみ、鑑賞の方法、技法について学び、想像力を豊かにし、言葉に対する感覚をみがきます。詩の中の、ひとつひとつの言葉にこめられた、作者固有の意味を理解します。 <b>道徳教育を実施</b>	●		●	●
三	8	評論 『手の変幻』清岡 卓行	対比型の評論文を読み、二つのものを比較しながら筆者の考えを把握する力を身につけます。抽象的な語句の意味を正確に読み取り、理解する力を養います。	●	●		●
	9	小説 『こころ』夏目 漱石	小説を主体的に読解・鑑賞する姿勢を身につけます。小説の提起する問題を、自己の問題に引きつけて考えることによって、人生に対する理解を深めます。 <b>道徳教育を実施</b>	●	●	●	
三	10	評論 『働かないアリに意義がある』 長谷川 英祐	社会と人間とのかかわりを、論理的に分析する力を養います。指示語の確認、比喩表現の解釈など細部の読み取りを確実なものとしながら、文章全体の構造を把握します。道徳教育を実施	●	●		●
	11	創作の楽しみ 短歌と俳句	近現代短歌、近現代俳句について、鑑賞と創作の両面からの学習を通して、それぞれの形式や表現方法の特色を理解し、短詩型文学を鑑賞し、また創作する楽しみや喜びが味わえるようにします。	●	●	●	
	12	「グローバル化」の中の異文化理解 壽原 則也	「グローバル化」がますます進む現代社会における「文化」というものがどのような状態にさらされているのかという内容を通して、論理的な思考とともに、社会のあらゆる問題が有機的に繋がっていることを理解する。 <b>道徳教育を実施</b>	●	●		●
	3	演習					